

HUGを体験してこれからやりたいこと

・役割分担	・受付の重要性
・町内の繋がりを密にする	・ペット避難場所をどうするか考えたい
・受け入れ時にスムーズに振り分ける	・その時の状況次第で対応する
・受け入れ内容を想定したQ&Aを作る	・必要な物品の準備
・町内でも考える体験を提供したい	・高齢者の自分自身にとって避難所で過ごす時間を可能な限り我慢、忍耐、苦痛を和らげる物品の携帯
・地域の人と人との繋がりを強化	・避難する人は最低限の準備(薬、ペットのゲージ、家族の連絡方法)をして避難所へ行く
・指示系統を明確化	・避難所に行った場合は自分にできることを探して動く
・町内会で前もって役割を決めておく	・地域で何が出来るか災害の種類ごとに考える
・ペットは飼わないようにする	・定期的に自主防災会の主力メンバーで集まり会議する
・町内会で話し合ったり体験していく	・仕切り役が必要
・HUGの体験を増やして対応力をつける	・町内の連絡網が必要?
・現場を仕切る人が重要	・町内の老人の避難手段
・各セッション責任者等(補助)の指定	・運営者の確保(連合町内会の取り決め)
・本部員(責任者、補助者)や事務局員の事前指定	・町内会員の意識づけ
・各防災会の当番制	・道路を頭の中に入れる事
・巡回者の選定(介護士等)	・またHUGをみんなとやってみたい
・早期避難と事前準備	・自分の身は自分で守る
・避難所に行かなくて済むような準備	・地域で訓練する
・自宅2階で避難生活できるよう準備	・近所同士で状況を把握する
・町内の障害のある方の知識が必要	・書くものを提示する
・自宅の避難部屋の修理、片付け	・災害発生時に即対応できるように何が必要で何を求められているかをよく考えて実行できるように
・町内会に防災対策部設置	・災害直後は丁寧な対応ができないと感じたので、今出せる指示を出し、落ち着いたら細かいニーズに対応していこうと思う
・町内で声かけ	・災害関連死を防ぐための対策をよく考えておくこと
・本部対応順位(急務、重要、不急)決定	・ペットを飼っているのでみんなに迷惑をかけないように対策をしっかりとしたい
・物資の整理(水、トイレ、食料等)	・トイレの設置場所、炊き出しや毛布等の置き場、水の確保
・学校の備蓄倉庫に水が圧倒的に不足	・本部人選を大事にしたい
・避難所の利用可能スペースの把握	・各町内で最優先を事前に決めたいと思った
・高いところへの避難を数か所探す	・動ける人をすぐにつかまえて設営をしてもらう
・方向性を合わせる	・駐車場の誘導とケガ人の把握(救急やけがの対応法)
・シミュレーション含めた準備が必要	・避難して来る人はお年寄りが多い。災害関連死をどのように守るか
・対応の優先順位を決める	・避難所運営は仕事と役割があることが必要
・資格保有者(介護士、ヘルパー等)を活かす	・ペット避難場所を事前に決めておく
・部屋のエリア分けをしっかりとる	・本部系統の訓練、地域の理解、避難計画、実際町内でどうしようか
・役割分担を事前に周知徹底する	・今回体験したことを周りの人に伝える
・どのような立場であっても役割を果たせるようにしたい	・学校でもやりたい
・町内会で防災について勉強して災害に備える	

令和7年度 下期防災訓練(3/8実施 HUG)共有用紙まとめ 62名分 R8.3.13作成

自宅の災害リスク	その他
・地震による液状化	・細かい要望もあるため実際に起きたら大変
・内水害	・近所の人との繋がりを大切にしたい
・家屋の倒壊	・本部の対応内容をある程度決めておく
・南海トラフ地震で浸水	・受付名簿の作成(フォーマットは要検討)
・地盤軟弱	・最低限ルールは必要(要救護者、トイレの順、ゴミ分別)
・老人や障害者の避難	・各自のリーダーシップ力の発揮
・津波	・リーダーシップがとても大事
・避難生活の準備が不十分	・病人や障害者の住まいの確保
・平屋なので倉の2階を片付ける	・見える化して整理する
・避難部屋の修理	・カードの想定(家族構成、年齢、性別、事情)をある程度単純なものにして初動行動のマニュアル化
・耐震対策不備	・HUGを通して実際に起きたら大変なことになることは分かったが何パターンか答え合わせできるものにしていいのでは？
・2世帯住宅(1階2階居住)	・実際に災害が起きたらスムーズにはいかないためどう工夫するかが問題である
・よく分からない	・操南学区の避難場所の選定
・津波被害はギリギリ大丈夫	・HUGを知れて良かった。日頃から防災を意識する
・電気とインフラの確保	・災害直後と日時の経過による対応の違いに対しての対応
・特になし	・自治会で避難所を運営するとしたら誰がリーダーとなってどういう体制で行うのか
・洪水が心配	・HUGは枚数が多くて時間が足らなかった
・震度6前後の揺れが予想されるため真剣に対応していく必要性を今更ながら感じた	・HUGは途中からカードをさばくだけになり深く考えることができなくなっていたのが残念
・ライフラインのダウンの対応が無い	・町内に入っていない人の中に年配の独り暮らしや外国人の障害者の独り暮らしもいるため情報が早く届くか心配
・災害の種類(地震、洪水、両方か)で対策が異なるため、事前にルールを決めておくことが必要	・女性の発表者がいなかったのが残念
・用水が多いため避難所に行くのも危険	・災害が起きないように祈るばかり
・備蓄	・場所を決めた後に移動してもらっても良いのか
・川が多いので夜は危ない	・誰が避難しても分かりやすいレイアウトを確立
・海拔ゼロ地域	・避難場所までの移動が課題
・夜は見えない。水害は動けない	・病気の内容に応じて病院へ連れていく
・災害リスクが高い地域	・資格所有者や対応ができる人を事前に知っておく
・旭川の土手付近に住んでいるので津波がすぐにくそう	・猫二匹飼っているので避難が大変そう
・孤立	
・2階に台所があるので数日は大丈夫	
・できるだけ野外活動ができるように準備する	
・自身が身体障害者なので災害時に動けるか	
・避難場所までの避難手段	
・全然準備ができていないので反省した	